

T u t t i

岡山県合唱連盟機関紙トゥッティ116号

発行責任者：事務局長 内田 毅

事務局：岡山市中区福泊 168-7 内田方

TEL:090-4695-7826/FAX:086-274-2726

e-mail : utida2443@gmail.com

主な内容

2面 中国コンクールに向けて
J-dur

3面 おかあさんコーラス全国大会出演報告
コール・ココ

4面 合唱講習会（山脇卓也）報告
岡大グリー
編集後記

合唱文化をいかに継承していくのかを考えています

岡山県合唱連盟 副理事長 松下 泰久

新型コロナ禍では合唱界に様々な逆風が吹き続けてきましたが、8月12日、4年ぶりにマスクなしの演奏の県大会が開催でき、しかも終日客席には多数の聴衆。閉会式でも演奏者たちは勿論結果発表を待つ「応援団」でいっぱい。また、舞台では表彰状を受け取る全団体の代表者が整列して待機。こんな光景がやっと戻ってきましたが、まだまだ昔話にはできません。

当日、審査そして終了後の各団への個別講評まで遅くまで労をお取りくださった、作曲家の上田真樹、石若雅弥、徳島県の新居誠司、広島県の福原泰弘の各先生方、そして本県の小池理事長、本当にお疲れ様でした。前向きな助言をたくさんありがとうございました。



さて、今大会を通じて考えたことを少し書き留めておきます。今回の県大会には大学生の団体が2チ

ーム出演。これを多いと感じるか少ないと感じるか各都道府県連で事情は異なると思います。そういえば、私自身は東京での学生時代に所属していた大学の合唱団は「コンクールには出ない。その代わり演奏旅行を含めて演奏会を中心に活動を行う」という活動方針で、コンクールには無縁の4年間でした。先輩の中には、「コンクールに全力投球するために、たった数曲に半年近く集中するのは名曲との出会いの機会を失う」と口にする方もいましたが、あれから40年以上、いまだに何が正解なのか分かりません。でも、大学生は自分たちで考えて活動方針を決められる時期です

岡山県の大学生たちは、「OSCA」という組織をつくり、大学の枠を越えた交流を図るとともに合同演奏会を行うなどの地道な連携活動に取り組んできた歴史を持っています。以前にも書きましたが、OSCAとして、指揮者の山脇卓也先生を講師に招き、スキルアップを図る企画なども進めています。ただ、残念ながら、ある一つの合唱団以外は仲間を増やす事にも苦労が絶えない状況で、連盟から脱退や団の消滅など、学生を取り巻く環境を含めて「合唱離れ」が加速する側面も見えます。また、各団体ともプロの常任指揮者は置けず、自分たちで何とかしている、だからこそ、他団と手を携えていくことも必要でしょう。

岡山県連としては、ここ数年、会場や講師の選定また経費的な支援を含めて、社会人になっても歌い続けていけるきっかけづくりを仕掛けています。また大学生だけでなく、小学生から高校生まで、また現場の先生方の支援も含めて、コロナ禍で学校から歌声が消えた3年間をどう取り戻すか、簡単ではありませんが、今手を付けないと合唱文化の継承に大きな「溝」ができてしまう。さらには「引退」をほのめかすシニア層の活動継続支援も喫緊の課題です。そんなこんなで研修部は知恵を絞る日々は続きます。

全日本合唱コンクール中国大会に向けて

J-dur 古内 沙希

先日の岡山県合唱コンクールにて、混声合唱団 J-dur は金賞をいただき、さらに中国大会にも推薦していただけることとなりました。当団として中国大会に駒を進めるのは 2016 年の第 69 回以来とのことで、団員一同喜びに溢れております。

今年の自由曲は、ブルックナーの「Christus factus est(キリストは従順であられた)」を選びました。他に黒人霊歌なども候補として挙げたのですが、よりシンプルでじっくり聴かせられるような曲にしようということで、この曲に決まりました。

会へ推薦していただけたところまで歩みを進めることができました。ここまで来られたのは、これまでの団の歴史を築いてきてくれた方々、今所属しているメンバー、そしてご指導を続けてくださっている森野啓司先生のおかげです。

今年もコンクールメンバーを集めることに難航しましたし、これから先も歌い手不足などの悩みは尽きないと思います。今回のメンバーも学生や社会人といった年齢の幅はもちろん、その他にも様々な立場を持つ面々が集まっています。J-dur のために県外から足を運び参加してくれているメンバーもいます。J-dur はまだ

「岡山城東高校の卒業生の団体」というイメージが強いかもしれませんが、卒業生だけに拘らず、初心者も含め幅広くメンバーを募っています。なかなか全員揃っての練習はできないのですが、練習の録音データを共有したり、団内に向けた毎回の練習報告をメンバー持ち回りでおこなったりと、練習に参加できなかった人を置いていかないような工夫も凝らしています。

中国大会までの練習の機会はあと数回と、決して多くはありませんが、岩国の地で J-durらしい演奏を響かせることができるよう、頑張ります。



課題曲に選んだ G2 の、フランス語の軽やかな曲調とは一変して重厚なハーモニーを深みのある響きで歌うことができるように、またブルックナーの音楽の特徴を捉えていけるよう日々の練習を重ねています。

J-dur は 1997 年に創設されてから、メンバーも毎年のように変化し、女声から混声へと編成も変わりました。一時はコンクールに参加することができない時期もあり、そこにコロナ禍も重なったことで団の在り方や存続するかどうかについて団員たちで話し合ったこともあります。そのような苦難の時期を乗り越え再びコンクールに参加できるようになり、遂に中国大

第76回岡山県合唱コンクール審査結果一覧				2023/8/12 (土)		
				倉敷市玉島文化センター		
部門	区分	演奏順	団体名	賞	特別賞	上位大会
小学校		1	朝日塾小学校合唱団	金		○全国
		2	岡山市立津島小学校グリーンコーラス	金		
中学校	混声合唱	1	総社市立総社西中学校コーラス部	金		○
	同声合唱	1	総社市立総社東中学校合唱部グリー	金		○
高等学校	Aグループ	1	岡山学芸館合唱部	銀		○
		2	倉敷高等学校合唱部	銅		
	Bグループ	3	岡山白陵中学・高等学校合唱部	金		○
大 職 一 般	大学ユース	1	岡山大学グリークラブ	銀		出場辞退
		2	岡山大学男声合唱団コール・ロータス	銀		○
	室内合唱	1	Flügel	銀		
		2	OHISAMA NOTE	銀		
		3	倉敷少年少女合唱団	金		○
	同声合唱	4	コール・ゆうぶんげん	銀		
		1	Coro Piacce	金	理事長賞	○
		混声合唱	1	合唱団こぶ	金	
2	J - d u r		金		○	

全国大会に参加して (コール・ココ8度目の挑戦)

松田玲子

「えーっ、先生が間に合わないかもしれないの！」岡山県大会の前に驚愕の懸案事項の出現。

引く手あまたの鈴木先生は、同じ日の午前には大阪で一団体の指揮をしてから、急ぎ岡山に向かわれることになったとか。ひょっとしたら、団員の指揮で歌わざるを得ないかもと、みんな（代わりに指揮を任される人も）は、不安で落ち着かない気持ちになっていました。

二曲を決定し、鈴木先生の熱いご指導で、今年の課題は「言葉を語る」ことだと毎回の練習で確認してきました。練習を重ねる毎に、言葉を語り、情景が見えるように、歌うことができるようになってきました。（そんな気がしていました）

『ほんとにきれい』は、4月咲き誇る桜の白く輝く花盛り、そして宝石のような実が緑の葉を飾る透き通った色彩を、短いフレーズの中で表現します。練習では、何度も同じ指摘を鈴木先生から頂きながら、難しくもあり、「そうや！」と言われると嬉しくなり、何回練習しても飽きない作品でした。

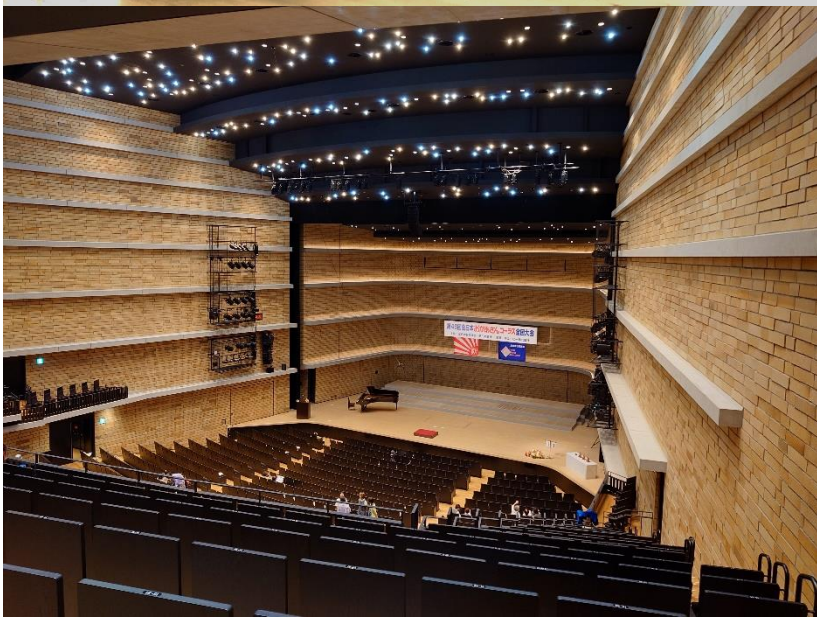
『いのちの歌』は、自然からの言葉、心の風景、清らかで尊く、そして歌い継がれる旋律（命）のそれぞれを、大切なあなたに伝えます。「語ってね」「しゃべってね」と、幅広い例えとお腹をよじるようなジョークを交えて、繰り返されたご指導に、私たちの目指す音色とイメージする情景が、次第の一つになっていったのを感じています。

県大会の出番は、何とか最後にして頂くことができ、当日の待ち合わせ場所には、鈴木先生の満面の笑顔が！この瞬間にココのメンバーは安心して、本番は心置きなく歌うだけ、と思うことができました。

県大会でも、他の団体は歌に花を添えるパフォーマンスを披露していました。私たちには、やや苦手な分野でしたが、全国大会では、歌から溢れるものを、動きを通して表現したいと振り付けを考えました。一条乱れぬ動きに揃えるのはなかなか難しく、でも何回か修正を加えていくうちに、気持ちを一つにして表せるようになりました。

全国大会は、さらにパワーアップしたステージの数々でしたが、私たちは、今表現できるすべてを歌うことができましたと思います。多くの団の優れたハーモニーに接して、これからのさらなる課題を見つけることができたので、一層深く合唱を楽しみたいと思っています。

姫路駅のストリートピアノで外国のご夫婦と一緒に歌った「蛍の光」の旋律が、もう一つのシーンとして印象に残っています。



OSCA主体の合唱講習会を開催しました

岡山大学グリークラブ 安達 祐貴

令和5年5月27日(土)に天神山文化プラザ(岡山市)で、山脇卓也さんをお招きして、合唱講習会を開催しました。合唱団運営のお悩み相談と岡山Chorfestの合同合唱(木下牧子「おんがく」)の練習を内容としたもので、会場の定員から泣く泣くお断りした方も多数。大盛り上がりの講習会となりました。

前半のお悩み相談パートでは、各団に共通する話題として団員確保の難しさ、練習運営の工夫などについて活発な意見交換が行われました。特に団員確保については、前提として合唱する「場」を好きになってもらうことが必要であり、そのためには「泊まりと飯」が重要だということになりました。

後半の「おんがく」の練習パートでは、先のお悩み相談で出た練習運営の工夫についても考えながらの練習となりました。

練習日数のうち、音取りに8割くらいかかるのは仕方ないのではないかとした上で、「今日、この日」の練習が音取りの局面なのか、表現を豊かにする局面なのかを明らかにして、目的意識を共有することが大事だというお話がありました。確かに特に人数の多い団体で、練習に来る人と来ない人がいる団体では難しいが、なるべく目的を共有してやらないといつまで経っても音取りから抜け出せないということについてはどの団体も思い当たるところがあるようで、各団体の指揮者やパートリーダーからは今後の練習の向上の糧にしたいというような表情が伺えました。

感染症の感染対策による制限も大幅に緩和され、岡山の学生合唱も雪解けを迎えています。引き続きご期待ください。



【編集後記】

例年になく暑かった夏が終わり、秋・9月になりました。とはいってもまだ真夏日が続いています。これから涼しくなりかけると急に体調を崩される方も多いと聞いたような。お気を付けてください。

さて、私事ではございますが、私の母が7月20日に老衰のため98歳で永眠いたしました。連盟から御弔電と御香資をいただき、会計様がわざわざ斎場まで届けてくださいました。心よりお礼申し上げます。母とは「母のうた」(吉田山田)でお別れをしました。歌ってやりたかったのですがまだ息が続かないので断念し、混声3部合唱のCDを流しました。法要も終わらせましたのでこれから連盟の仕事に傾注したいと思います。

今月23日(土)、24日(日)は中国コンクールです。会場は岩国市のシンフォニア岩国です。初日が10時半、二日目は10時の開会ですから日帰りで聴くことが出来ます。チケットがご入用の方は前売券が事務局にありますので連絡してください。(前売券:1500円、当日券・2000円)

次の県連事業は来年の2月11日(日)アンコンを倉敷芸文館で開催します。10月末には開催要項をお送りできると思います。また、来年は役員理事の改選の年です。1月14日あるいは21日に臨時総会を開いて県連の理事長以下役員を決め、28日の支部理事会で中国支部長以下の支部役員が決まります。又ご案内しますのでよろしくお願ひします。

事務局長 内田 毅